



# 京都教区時報

特集 - カトリック校の奉仕活動(1)・難民問題  
小教区の頁 - 教区事務所

第65号

発行所

京都市中京区河原町三条  
カトリック京都司教区  
広報室 (Tel 211-3768)  
編集責任者 村上透磨  
編集部 教理センター  
田中司教認可

## 平伏して

村上透磨

「回心を呼びかけておられる神に心を開いて下さい。」神との一致の第一歩が回心である事を私達の誰もが知っている筈だ。その為、閉ざされた自分の心を神に向って、大きく広く深く開け広げねばならない。(注エフェソ3:17-18) そうしてはじめて、神の愛も理解されようし、恵みも満ちあふれ、神の国も生まれ始める。

「回心しなさい。神の国はあなたの方の中にある」としているのだから、「(マタイ5:17) 神の国、つまり神の慈しみの支配を受けるためには、回心、即ち、自己の古い人、罪と弱さ、みにくさ、きたなき、一人よがりである事に痛みを憶える事、そして神の慈しみに信頼して神に向う新しい人への歩みである。」

ヨハネ23世により始められた公会議は、教会の現代化(アτζジョルナメント)を目標とし、それは回心と刷新と云う精神に色彩されていた。私はあの相撲取りの様な、ころころとふとった愛嬌ある教皇様が、聖霊の光に惹かれた様に、世界の前にひざまずかれた姿に深い感動をおぼえた。そう教皇は世界の前にひざまずかれたのだ。おごり高ぶった心でなく、「私達も誤まっていた事があった。それをゆるしてほしい」と云われた。

それはプロテスタントの兄弟に向って特に云われた言葉の様に記憶するが、この言葉と態度こそ、第二ヴァチカン公会議の精神を、象徴的に示している様に思う。

私達はすべての被造物の前に胸をうち、ひざまずく事をおそれてはならないと思う。そのひざをかがる態度から公会議の信仰宣言が行われた。現代世界憲章然り、教会憲章然り、エキュメニズム、諸宗教の教令然りである。

この公会議に於ける一つの驚きは、聖なる教会が罪人の教会であり、貧しい人々の教会である事を認めた事であろう。

私達は姦通の女の話(ヨハネ8章)を知っている。あの女の様に、私達はキリストの前に人々の前に平伏する事が出来ないだろうか。

あの女の中に教会の姿を見たい。もし本当に自分の非を認め、痛悔の涙にくれるならば、私達を責める人も、キリストの護りによって去って行くだろう。そしてキリストの慈しみに出会う。神のいつくしみに出合った時、そのゆるしを知った時、キリストのいつくしみにあふれる目に見つめられた時、キリストの恵みにあふれるのを知るだろう。そして、私達は愛と希望に溢れて歩きはじめるだろう。

四旬節は回心と刷新の時である。それは、カルワリオを通して実現される復活への希望の道である。そこには必ず十字架と茨の冠が与えられるだろう。公会議が示した道は、この十字架の道、四旬節の時をさし示しているのではなからうか。真の教会が生み出されるためには、この生みの苦しみを味う事になる。でも回心し、心を開かねばならない。

- ▽一月十三日⑩ 第二バチカン公会議文書勉強会(京都府南部) 長江司教講演於・河原町教会
- ▽一月十四日⑩ 京都教区司祭評議会 日本司教協議会機構検討委員会・東京
- ▽一月十五日⑩
- ▽一月十八日⑩ 二十十五日⑩ 浜尾横濱司教著座ミサ 於・横浜 信仰一致祈祷週間
- ▽一月二十日⑩ ベトナム難民御所教会(奈良)へ到着
- ▽一月二十一日⑩ 福知山教会司教訪問
- ▽一月二十三日⑩ 邦人司祭月例会
- ▽一月二十四日⑩ 日本宣教司牧委員会 於・富士聖心学院

## 教区短信



- ▽一月二十七日⑩ 司教綾部教会巡回訪問
- ▽一月二十八日⑩ 京都カテキスタ総会
- ▽二月三日⑩ 河原町教会百年祭
- ▽二月六日⑩ カトリック幼稚園長会
- ▽二月十日⑩ 東・中舞鶴教会(司教)
- ▽二月十一日⑩ 二十六聖人顕彰ミサ
- ▽二月十七日⑩ 小山教会堅信式
- ▽二月十八日⑩ 教区邦人司祭月例会
- ▽二月二十日⑩ 灰の水曜日
- ▽二月二十四日⑩ 教区修女連總會
- ▽三月三日⑩ 京都教区司祭評議会
- ▽三月九日⑩ 加悦教会巡回訪問(司教)

# インテルノス (司祭修道者懇親会)

一月四日

八十年代の夜明け、一月四日、十時より、河原町教会に於いて、司祭修道者の懇親会が行われた。申年、神の申される事を聞くべく、会は敬虔な祈りの中に、共同司式ミサが約80名の司祭によって始められた。ミサ後すぐ小グループに別れ話し合いに入った。内容はミサ中の田中司教の説教を念頭におきつつ、特に第二ヴァチカン公会議以後やるべき事でやつた事、やらなかつた事について討論がなされた。

ミサ中司教は、八十年代を生まれたばかりの無垢な赤ん坊になぞらえ、世俗化の垢に汚されていない年代をキリストにおいて強化するチャンスである事を指摘する事からはじめられた。70年代は石油問題に象徴されるエネルギー問題、発展途上国の急激な変化、平和共存の問題が大きくクローズアップされた時代、教会としてはアジアに目を向けた時代であった。パウロ六世のはじめのアジア訪問にはじまり、アジア司教協議会の発足、司教個人としても79年には四回もアジア諸国に出かける機会があり、アジアを肌で感じた年であったと指摘された。

アジアの特徴は、全人類のきの人口を占め、多くは貧しい国、発展途上国であり、子供達が多い国、キリスト教が絶対的少数であり、古い文化と伝統と宗教を持っている。世界は経済物質科学主義の行き

づまりを感じ、特にアジアにおける精神主義に活路を求めている。二千年まで、あと20年を残す現代、我々の出番、福音の出番である。誠実な心で福音の精神を伝えねばならない。

さて今公会議は、聖霊に導かれた恵みとして受けとめ、神が我々と共にいて下さると云う事の確信を持つべきである。又回心と和解と云う事も大切な精神であった。公会議以後、教会は変わったと云う事が云われる。例えば典礼は自国語になったと云う現象面の変化はわかつてもその精神はまだ十分に理解されていない様に思える。そのため公会議の文書学習会を通して、学的でなく、精神的でなく、神とそれにとつた信仰告白をしたい。福音書を通して、みことばを知るものはキリストを知るものである事を理解し、福音こそ、我々の要望に答えるものである事を確信したい。又教会、社会の福音化、信徒リーダーの養成等に心を向けるべきである。又我々は大切なものを忘れてはいないか、自分のやっている事に確信をもつ一方、他人に対する狭い心をさけ、神とはゆるしの神である事を体験していくべきである等の主旨の事を話された。



文書学習会を  
通して、学的でなく、精神的でなく、神とそれにとつた信仰告白をしたい。福音書を通して、みことばを知るものはキリストを知るものである事を理解し、福音こそ、我々の要望に答えるものである事を確信したい。又教会、社会の福音化、信徒リーダーの養成等に心を向けるべきである。又我々は大切なものを忘れてはいないか、自分のやっている事に確信をもつ一方、他人に対する狭い心をさけ、神とはゆるしの神である事を体験していくべきである等の主旨の事を話された。

各グループの結論のまとめは、だいた次の様である。

## 一、開かれた教会

- 1 アジア地域に宣教師を送れば。
- 2 日本の教会はまだ西洋的。日本的伝統に基いたものであるべき(土着化)
- 3 教会の民主化、信者の声を生かす。
- 4 司祭が自分でしなくてもよい仕事から離れる。
- 5 共同体的意識がうすいのでは。
- 6 信徒司祭が喜びを感じる事が出来る場を作る。
- 7 教会全体として公会議の精神を学ぶべき。
- 8 教会の諸活動の情報交換を密にする。
- 9 福音宣教の具体的取組み不足、信徒の教会離れは位階職のみの問題でなく、信徒一人一人の問題である。
- 10 自分の家の中の飾りつけを努力したが、家の扉を開いていない。つまり、内部刷新を目ざしても、外部に向つての刷新が不足。

## 二、自己、教会、社会の福音化

- 1 信徒が社会の中にあつて証しが出来る様にする。
- 2 説教改革の必要。
- 3 日本文化と公会議とのずれの研究不足。
- 4 教会が社会からの避難、社会への予言的態度の必要性。
- 5 社会に教会の霊性を表現したい。
- 6 聖書に根ざした求道者教育書の必要。
- 7 子供教育の強調(青少年、家庭教育)
- 8 社会の福音化への努力不足。
- 9 教会の女性化、男性的要素の不足。
- 10 福音化は単なるサルマネでなく、夫

## 夫の特能に従つて創造すべき。

## 11 福音宣教の具体的取組みの不足等。

## 三、信徒リーダー養成

- 1 教会内では仕事をしても、社会、自分の職場で何もしない人がいる。(助祭養成、信徒リーダーの養成)信徒使徒職強化について司祭の勉強不足等。
  - 2 共同体練成会等による共同体意識の向上。
  - 3 ミサの意義を深める等。
- ## 四、その他
- 1 中心が人間となり、神でなくなった。具体的に、共同で祈るが個人と神との対話が乏しくなった。昔のよい習慣信心等が軽んじられる様になった危険。
  - 2 第二ヴァチカン公会議の精神が浸透していない。外形の変化に気を取られ、精神の理解が十分なされていないのでは等。
- 其後、全体討論の時に出たいいくらかの点を補足しておくとして、外に向つての努力不足は何故起つたか」との問いに対し、公会議が日本の場合上から与えられたものとして受けとめられ、まわりの触れ合いとの不足、祈りをこめた社会への働きかけの不足等が指摘された。「古いものと新しいもの」の対立と云う点では古い新しいが問題でなく、真のキリストの教えは常に新しいものだとも云う事を自覚すべきだ、聖霊は常に働いておられ新しい発見を常に助ける、教会は変わっていくのでなく新しくなっていくのである等の点が指摘され、三時頃閉会した。

### ようこそ奈良へ

思わぬ大雪に見舞われた一月十八日の夕刻、ベトナムから、またカンボジアから疲れと不安をかくしきれぬ35人の難民の方達が大阪空港に到着。

ひとりぼっちの白髪の老人、母より一足先に送られた幼い男児、行先わからぬ夫に後髪をひかれる思いにかられながら3人の子どもとサイゴンを脱した若い妻等、大き過ぎる着なぬ厚手のオーバーが一層彼等の不安な日差を印象づけた。

御所難民収容所担当者、カーティ師、カリタス・ジャパン代表松村師、奈良県議、教区代表齋木師、教理センタースタッフ数名の出迎えを受けた一行は、弱々しいながらもこやかさを忘れず、用意された二台のマイクロバスに分乗、収容所

のある奈良県御所に直行した。既に奈良県と西大和カトリックセンター、カーティ師他、善きサマリヤ人会、コングレガシオン・ド・ノートルダム会、葛カトリック幼稚園の多くの父兄の協力を得て、ブレハブ住宅8戸、食堂、ホールなどが収容施設として一行を待ち受けていると聞いた。煌々と照される報道陣のフラッシュと出迎えのグループの振る手に、一行は同じように応え施設に向ったが、記者は善意ある人達から寄せられた山積の衣類、とりつけられた暖房設備にも増してこの人達に必要なのは私たちの心と手のぬくもりを直接伝える事だと感じた。

ご協力についてのお問合せは 御所難民収容所 カーティ師 (電)〇七四五六一七〇一三六まで。

### 聖母短大祝別竣工式

11月24日11時、藤森の聖母短大では、田中司教主式、古屋、相馬両司教、奥村学長はじめ20名の司祭による共同司式ミサにより、短大新学舎竣工式が盛大に行



われた。これに先立ち、田中司教は全長150米、4階建ての学舎をくまなく祝別この真理の殿堂で、学び教える人々の上に、神の恵みと祝福を祈り求めた。

其間、日本芸大教授、オルガン協会長、秋元道雄先生によるオルガン開きが行われ、美なるものに心奪われたのだった。祝別後安藤管区長挨拶、関係者への感謝状贈呈等が行われた。式後祝賀会に入り教皇大使メッセージ、京都、大阪知事の祝電披露。更に、カトリック短大連盟会長、教育大学長等各位の祝辞等があり、相馬司教による鏡割、長老藤本先生の乾杯の音頭により、参加者一同、ここに集うすべての人々の前途を祝した。翌日、一般公開がなされ、大阪フィル管絃楽団による演奏が有終の美を飾った。真理はあなた方を自由にすると云う、主の言葉が豊かに実現する事を祈ってやまない。



### 結婚への召出し — 結婚互助会 —

京都教区にこの会が結成され約二年が経過した。各小教区から二名ずつ選出された委員により、毎月第一日曜、定例会議が開かれる。結婚希望者から出された申込書による情報交換、集団見合と云える「バラの集い」の計画、その後の経過報告等が文字通り熱気に満ちてなされる。

一昨年北白川教会で、バラの集いの最初の試みがなされ、四組の結婚の誓約が出来た。これも周到な準備、委員の親身な努力の結果である。第二回は昨年9月24日高野教会で行われ、早々一組がまとまり、数組のデートが始まっている。教会が聖家族に倣って我々の家庭生活に真の信仰の結果である誠実な愛情を期待するのはふさわしい事である。結婚もまた単に社会的なものでなく、超自然的召し出しに他ならない事を知るべきであり、奥義である秘跡の下に永遠に結ばれた人達は、その一致の中で結婚生活を過し自己聖化に召されている。

順境、逆境を問わず、喜びも悲しみも出合う真の愛の心は凡てたくましい信仰の賜物である。実りある婚姻の秘跡により、結婚生活を通して、貞潔、清貧、従順の三徳の中に人生を送るうとしている



使徒ヨハネ平間三郎師 (68才、教区司祭) 去る12月17日、脳溢血のため焔天。

師は明治44年桐生市に生まれ、昭和六年西陣で受洗。昭和29年司祭叙階。西陣、園部、河原町教会等で司牧にあたられた。同志社時代ラクビー選手として活躍。意識不明の中でも手は胸に合わされ、生前の師の心構えがしのばれる。

又ヴェール会誓願式・銀祝 永久誓願式

- Sr. マリーベルナデッタ黒田
- Sr. マリージュリエンヌ花坂
- 銀祝 アガタ大槻
- Sr. フィロメヌ増田
- Sr. フランソワーズ岡部

### 浦和司教に 島本要師

浦和教区長、長江恵司教の後任として横浜教区の島本要師が選任された。

〔訂正〕前号、二頁に次の間違いがありました。お詫びして、訂正します。 二段、七行め 受洗者↓受堅者 三段、五行め 園辺教会↓園部教会

司教の足どり

十一月～一月



- 11月
  - 16 教区内カトリック幼連園長会
  - 18 ⑩教区信徒協賛会ミサ
  - 19 教区付邦人司祭月例会
  - 20～23 四国訪問。募参、四国ドミニコ会宣教75周年、高松教区創立75周年式典参加
  - 24 聖母女学院短大新学舎祝別式
  - 25 ⑪小山教会ミサ、同信徒会と懇談。聖書週間講演(山本七平氏)
  - 27 司教協無宗教委(東京)
  - 28 駐日バチカン大使館訪問。東京神学院代表と面談。日本宣教司牧センター理事会
- 12月
  - 1 野中副知事と面談。マニラへ出発
  - 2～8 国際宣教大会(五大陸より枢機卿、司教、修道者、信徒 司祭、が400名位参加)
  - 9 マニラより帰国
  - 11～13 日本司教協臨時総会
  - 16 ⑫桂教会堅信ミサ
  - 17 平間三郎師急逝(教区付司祭)
  - 18 同師通夜
  - 19 同師葬儀ミサ
  - 20 平間師遺族と面談
  - 21 世界連邦日本宗教代表と面談
  - 23 ⑬河原町ミサ。修女連代表と面談
  - 24 市民クリスマス・ミサ
  - 25 真夜クリスマス壮厳ミサ

- 26 信愛幼終業ミサ(教職員)
- 27 教区付邦人司祭月例会
- 28 有志司祭勉強会(小山)
- 29 聖心のウルスラ会代表来訪
- 30 ⑭桃山教会ミサ
- 31 ヴィアートル年末夕食会
- 1月
  - 1 元旦ミサ。(上賀茂神社、松尾大社)
  - 4 教区内司祭修道士の新年集會
  - 5 ヌヴェール会永久誓願式(藤森)
  - 6 ⑮河原町ミサ。典礼部新年会
  - 7 教区事務所ご用始め
  - 11 ナドウ師と面談(京都キリシタン)。南壮連新年の集い
  - 12 メリノール女学院理事会
  - 13 ⑯公会議南学習会開始(京都南部)
  - 14 司祭評定例集會。司教協機構検討会
  - 15 横浜司教着座式(浜尾司教)

お知らせ

第二バチカン

公会議文書勉強会

時間 午前10時～12時 婦人対象  
午後7時～9時 壮年男子対象

場所 京都カトリック会館 6階ホール  
入場無料

2月5日(㊄)

“教会憲章Ⅱ” 朝岡淑人師  
夕藤堂隆師

2月12日(㊄)

“現代世界憲章” 朝松本秀友師



ウオーカソン募金ユニセフへ寄付

昨年十二月十六日 村上透磨師はウオーカソン参加者、瓜生和彦、高見圭一両君、牧玲さんを伴って日本ユニセフ協会京都支部を訪れ、ウオーカソンスポンサーから寄せられた、五〇〇、五二二円を国際児童年募金として届けました。ありがとうございました。

- (福音宣教) 夕 滝野正三郎師
  - 2月19日(㊄) “現代世界憲章” 朝 越知健師
  - (福音宣教) 夕 西野猛生師
  - 2月26日(㊄) “信徒使徒職” 朝 浅田年生師
  - 夕 村上真理雄師
  - 3月4日(㊄) “典礼憲章” 朝 松田友明師
  - 夕 丸山吉高師
  - 3月11日(㊄) “エキユメニズム・朝 田中健一司教
  - 夕 花井拓夫師
  - 3月18日(㊄) “キリスト教教育” 朝 山田右師
  - 夕 小野十益師
  - 3月25日(㊄) まとめ 古屋義之司教
- 京都教区教会学校教師会総会
- 日時 3月20日(㊄) 春分の日  
午後1時半～4時半
- 場所 京都カトリック会館 6階ホール

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀・貨物一式(仏式可)

**聖ヨゼフ葬典社**

パウロ 杉下 安雄

京都市右京区西院寿町23  
電話 (075)312-7829

タイプ・活版 } 各種印刷  
オフセット }

**今道印刷**

〒602 京都市上京区天神筋一条下  
ル下堅町152  
電話(075)463-6024番



**建築設計監理  
一級建築士事務所  
環境設計**

〒601 京都市南区東九条下殿田町15  
(市電九条車庫)

☎京都(075)671-6038



特集

# カトリック校の奉仕活動(1)

学校教育の一環として、ボランティア活動が重視されている。中でもカトリック校は、その教育目標の実践としてもそれぞれ努力がなされているようである。

そこで編集部は、今号と次号の二回、教区内の各校にその活動を紹介してもらった。この特集が、私たちの刺激になればと思う。

## メリノール女子学院

「社会に貢献できる人」は本校が常に一人ひとりの生徒にかける願いである。中学、高校を通して「キリスト教倫理」の実践につながる奉仕活動として、毎年精進兜施設「聖母の家」清掃を6・12月に、道路、公園、駅の清掃を夏休みに行うほか、ユニセフ、赤い羽根その他各種街頭募金活動を季節的に続けてきた。有志の奉仕グループとしては高校にMSC(メリノール・サービス・サークル)、中学に

マリヤ会があり、それぞれ各施設に送る雑巾づくりを校内活動に、対外的にはクリスマスプレゼントづくりを活躍している。昨年は大量のプレゼントを地元施設、長崎のみさかえの園、名古屋の日雇労働者の方々に送って奉仕の喜びを味わった。

生徒間の奉仕への関心は年を追って高まっている。自主的に電話帳で一人住いの老人の住所を探して訪問、奉仕活動をしたり、手作り絵本をもって施設の子ども達を訪ねる等、善意と努力のパン種は静かにふくらみ続けている。生徒の父兄三十余名が「聖母の家」清掃に参加し始めたのも奉仕のパン種の生きたしるしと思われる。

## 聖母学院 中・高等学校

今年、一人の卒業生からきた年賀状に、新年の挨拶とともに、「高校時代、社会事業で充分活躍できなかった分、点及会に入り、拡大写本と弱視用地図に取り組んでいます。」と書いてあった。

社会事業部というのは、二十余年前、伊勢湾台風のとくに、中京地方の被災を救援することをきっかけに、活動を始めたクラブである。その後、本校では、福祉活動を生徒全体の活動として考えるようになり、さらに、昨年は、京都府下における福祉教育研究指定校の一つに選ばれ、学校教育の中で、福祉の関心を考える時機になっている。

中学・高校生の福祉活動の範囲は狭く

施設訪問、チャリティー・セールによる金銭的な援助が、学校の年間活動の中心となっている。昨年三月には、ヤングエマウスの仕事を手伝い、また、「車いす仲間会」の活動にも参加し、さらに広く、充実した活動にしていきたいと考えている。

## ノートルダム女学院



ボランティア・スクールで車イスの介助をならう

初めにあげた卒業生のように、福祉活動が、学校という枠を出て、より大きく広がっていくことを願っている。

第三は奉仕を目的としている中学キリスト教クラブ、高校キリスト教同好会が定期的に施設を訪問し、老人、こども達と接することによって奉仕のよさを感じて味わっている。

## 日星高等学校

カトリック精神「愛と奉仕と実践すること」という校風のもとで、若者にとって人格の形成に必要なボランティアの心を培うことを目的とし、ボランティアサークル・生徒会を中心として全校をあげて奉仕活動を行い、経験を深めていっている。

本校における福祉教育は「キリストの愛を人々に」とともに生きる社会」を目指して行われている。

活動そのものは大きく三つにわけることができ。第一は年間計画の中に講演、映画等を通して「福祉の心」を学び、考え、年末の奉仕活動で実践へと結びつける。昨年末、各学年各クラス独自の取り組みで労働、慰問奉仕した施設は老人ホーム・五、養護施設・五で、その他国内諸施設とインド・カンボジアなどの外国へ衣類、文房具・資金などを送付した。

第二は毎二学期末に高校生有志を募つ

て三日間の「ボランティアスクール」を開講し、社会的・身体的なハンディを負っている人々の問題を理解し、福祉についてより深い知識を得、実践の機会をもつことよって、小さな種子ながらやがて社会の中ですくすくと成長することを期待している。

その他、校内における活動として、文化祭の時の市内の作業所で作られたものをもちよつてのボランティアバザーや、福祉映画会、校舎内外での整備などの奉仕活動を行っている。

私は、昨年四月から今までと全く種類の違う仕事に移って、毎日「紙紙」(かみかみ)と出会いながら、人々との出会いの意味を新たに考えさせられています。確かに教区事務所と各教会、修道院・学校・幼稚園・施設などとの繋がりは、ハンコの繋がりがとも知れませんが、私は教区事務所がカトリック京都司教区のすべての所と連絡がとれ、また京都教区が、それらのすべての所や信徒との信仰による繋がりによって支えられていることを実感として受取ることが出来ます。時としてこちらの不手際に対してお叱りを受け、その中に温かい支えを感じています。紙の裏に人間を感じているのが最近の



繋がりを

求めて

私です。一枚の紙が、こんなにも人間について語るとは今まで余り感じませんでした。きっと私の人間も皆様へお送りする書類や手紙の中に出ていることでしょう。

一方、聖書のことを考えると、その一枚一枚の紙の裏に人を感じることはそんなに簡単ではないようです。もし、私が聖書を通して、イエズス様と、弟子たちと、初代教会の信徒たちと直に生命の繋がりを感ずることができたならば、私はその一ページ一ページから、イエズス様の人間を感じることが出来るのではないかと考えています。その時、紙々との繋がりを通して神との繋がりを知ることでしょう。

齋木嘉作神父

カトリック

京都教区事務所

小教区の頁



所在地 河原町三条、カトリック会館五階  
内容 宗教法人京都司教区  
社会福祉法人京都司教区カリタス会

・学校法人京都教区学園  
人員 事務職員七名(内一名非常勤)  
所長 村上真理雄師(司教代理)  
主任 齋木嘉作師(教会法官、カリタス・ジャパン担当)  
所員 吉岡龍之助(法人担当、豊中教会所属、ヴォランティア)  
重本晴光(保険・給与関係、桂教会所属、衣笠墓苑事務担当)  
・児玉節子(会計担当、聖母カテキスタ教会所属シスター)  
・池田光子(庶務担当、ノートルダム修道女会所属シスター)  
・山本厚美(非常勤・庶務、伏見教会所属)

これが教区事務所の全容公開写真(写真ではない)ですが、教区事務所は組織としては本来もっと広いものだと思います。

というのは、カトリック会館五階以上を全部含めて教区事務所と呼ぶべきだという説もあります。そうすれば、所員は一気に四六・六六パーセント増員され十二名になります。即ち、田中司教(総主事・宣教、司牧、教区経営管理、渉外、行政法制、諸宗教との対話、教会非常勤主任、庶務、人事、などなど担当)、田中久枝(司教館世話、九階六階宿泊施設、ホール管理担当)、吉田真緒(河原町教会司祭館世話担当)、森田国義(教区事務所所轄管内の保全担当)除門智子(Sr.田中の元で司教館世話)の五名です。

教区事務所は、エレベーターを降りて右へ行った所の奥の部屋で、事務所を訪れる人が最初に顔を合わせるのがシスター児玉です。算盤片手に複雑な会計書類と取り組んでいます。かといって、コインのように円い顔、お札のように四角い顔を想像されては困ります。大分県の風のようにカラツとした方ですが、お金の事に関してはとてもきちりして、お金のけのわからないお金は司祭がたのんでも出してもらえません。次に、入口に背を向けて(時々タイプの前)に坐っている人がシスター池田です。別に訪問者との対話を拒否しているわけではなく、背中で教える。ことを地で行く為です。いつも教区統計やお知らせや文書作製で、少し休む暇がある位忙しい仕事をしています。この二人の右横の机が非常勤の山本さんです。週一回手伝をお願いします。審美観は人によって異なりますので深く立ち入

らないことにします。シスター池田と同じ仕事です。その反対側の席が、齋木神父です。菅原洋一とフランキー堺の線上に並べられる感じですが、まじめなのか、不まじめなのかわからない人で、いつも頂けない駄洒落を言っています。仕事は司祭修道者方との連絡、ハンコを押すことです。左側奥の方で入口の方に向いている人が吉岡さんです。自ら会社を経営していて、自分の時間を教会の為に捧げたいとのこと、田中司教が請われて法人関係の仕事のお手伝いを願っています。ピエール・バルマンのセーターのよく似合う若いおじいちゃんです。その向いが、「世に光を」と自ら社会を明るくする重本さんです。メリノール会時代からの最古参で、保険、給与関係のことなら私におまかせください」とは言われませんが、いつも細かい数字を細い罫の入った計算用紙にぎっしり一杯書き込んでいます。優秀なお孫さんの話と古果の大丸の話が出るといつも目を細めているおじいちゃんです。とてもお年には見えない元気さです。千両役者は、最後に花道を通って登場します。その人が村上真理雄神父です。うっかり「真理さん」と呼ばないでください。振り向いた男性を失望させないように。れつきとしたハンサムな男性です。右の奥の方に大きな机がありますが、実務は殆んど自室でしていますが誰からも好かれる人柄で、司教の「指」ではなく、片腕として働いています。紙面の都合で司教館の方が紹介できませんでした。悪しからず。(文責・齋木)



### 編集者の初夢

読者「私は、毎号スミからスミまで時報を読むが、よう頑張つてはる」

編集者「それは、ありがとうございませう」

読「しかし、一つ不満がある。ここぞつと読者のページがないことや」

編「あ、それが……。投稿がほとんどないものですから」

読「しかし、そのことは読者だけの責任やないやろ」

編「なるほど、それは楽しみや」

読「なるほど、それは楽しみや」

編「なるほど、それは楽しみや」

編「その通りです。私たちが努力不足というか、アイデア不足だったのは認めます。読者の方が、参加してやろうという紙面作りをしていたかどうか」

読「それで、今年はどうするのや」

編「まず、もぐらの寝言」という欄を作りました。これは、編集者が日頃感じていることをぶちまける欄です。中にはこれを読んで、私はこう思うと投稿してくださるかも知れないし。それにこれと関連した内容で、ひとこと」と

読「読者の方に短いご意見を書いていただく欄を設けました。合わせて読んでいただく、一つの問題を深く考えることができるのではないだろうか」

編「なるほど、それは楽しみや」

読「なるほど、それは楽しみや」

編「その他に、今まで通り毎日の生活や教会で感じられたこと、考えられたことがあれば、自由に投稿してください。ばいばいのです。字数は六〇〇文字で、お名前と所属教会をお忘れなく。それと、詩や俳句、短歌、イラストなども大歓迎です。何しろ、皆さんのページです。よろしくお願いします」

読「よつしや、まかしとき」

編「よつしや、まかしとき」

読「よつしや、まかしとき」

悪い方へは取らないようにしている。そうすれば自分がとてもしあわせに思われてくる。本当に心一つで、自分を明るくも、暗くもするいくら体の自由を失われても

心の自由は神にだつてお取りになることはできない

本当に私の思い通りになる私はこの心で生きてゆく

（こひつじ苑 寺尾京子）

ひとこと

難民……

◎皆さんの協力なしでは、御所難民収容所の設立は考えられない事と深く感謝しています。この収容所に一先づ落着いた難民の方達に、新しい希望とチャンスが与えられるよう、引き続き皆さんのご協力をお願いいたします。 カートイ師

◎難民の日本での定住希望者が異常に少ない事実。政府も私達自身も今こそ人種差別の構造と真剣に取組む時が来たのではないか。難民の方達にお金や衣服を与えられるだけでは、小さな兄弟を愛することにほならないと思う。 一学生

◎私達が幸せすぎるからなのか、国を捨てるということが実感としてわかりませ

ん。それだけに難民の方々の現在と将来の重荷は、想像を絶するものだと思いま

す。 Sr.児玉（聖母カテキスタ會）

寝言の一年間にいろいろなことがありました。私にはタイをこわく恐しく考えていた時期がありました。でも住んでみるとタイ人はみんな親切な人ばかりで驚きました。

そして自分の心の狭さに気がきました。

今問題になっているカンボジア難民について母と母の友達はずいぶん早くから世話をしに行きました。世話をしているのは外人ばかりで、日本人では興味をもって来る人はいませんが、世話するのは母たち四人だけだそうです。外人たちは余りの忙しさに裸足になつて走りまわり世話をしているというのに。

「バンコクからの手紙」に答えて

森まち子 中2 タイ・バンコク在住。 毎日新聞掲載

んなものでもきたなく思つてはいけません。骨と皮だけの可哀そうな人を世話しなくてはいけません。まず、心の準備が必要ですか、自分のためになると思つて

います。

日本では同じアジアでありながら受け入れようとしていません。お金、衣服、食糧を寄付するだけで後は知らんぷり。

「自分さえよければ」という感じがします。私は学校が休みになったら、収容所に行つてみようと思います。行くにはど

同胞の苦境には素早い救いの手を差し伸べる日本人が、他国民の痛みには反応が遅く「地球市民としての資格に欠ける」と各国からの批判。だが難民の為に何かをしたいと思いが、さて具体的に何をしたらいいかわからない多くの善意の人達のある事を信じて疑

われない。奈良に準備なつた難民収容所は、刑の道

を歩き続けて来た遠来の客を人待願。今こそ各種各様の信徒使徒職を展開し多くの人達の善意を吸い上げ生かす時。日本全体、外からはマイホーム国家に見られ猿に劣らず赤面したので、教会が繰返すこともあるまい。キリストのマイホーム志向はすべての兄弟をひき連れて御父の家に向う事

(Y)

客を人待願。今こそ各種各様の信徒使徒職を展開し多くの人達の善意を吸い上げ生かす時。日本全体、外からはマイホーム国家に見られ猿に劣らず赤面したので、教会が繰返すこともあるまい。キリストのマイホーム志向はすべての兄弟をひき連れて御父の家に向う事

(Y)

客を人待願。今こそ各種各様の信徒使徒職を展開し多くの人達の善意を吸い上げ生かす時。日本全体、外からはマイホーム国家に見られ猿に劣らず赤面したので、教会が繰返すこともあるまい。キリストのマイホーム志向はすべての兄弟をひき連れて御父の家に向う事

(Y)

客を人待願。今こそ各種各様の信徒使徒職を展開し多くの人達の善意を吸い上げ生かす時。日本全体、外からはマイホーム国家に見られ猿に劣らず赤面したので、教会が繰返すこともあるまい。キリストのマイホーム志向はすべての兄弟をひき連れて御父の家に向う事

(Y)

客を人待願。今こそ各種各様の信徒使徒職を展開し多くの人達の善意を吸い上げ生かす時。日本全体、外からはマイホーム国家に見られ猿に劣らず赤面したので、教会が繰返すこともあるまい。キリストのマイホーム志向はすべての兄弟をひき連れて御父の家に向う事

(Y)

客を人待願。今こそ各種各様の信徒使徒職を展開し多くの人達の善意を吸い上げ生かす時。日本全体、外からはマイホーム国家に見られ猿に劣らず赤面したので、教会が繰返すこともあるまい。キリストのマイホーム志向はすべての兄弟をひき連れて御父の家に向う事

(Y)

一九八〇年一月十八日、午後八時半、シンガポールから夕暮れの大阪空港に着かれたベトナム難民の人たちを乗せたマイクロ・バスは、金剛山地に沿って通る国道を御所教会に向って走っていた。暗闇の中に点々と灯る民家の明りを眺めながら、この人たちは故郷の家、残して来た妻や子、楽しかった夕食の団欒を思い出しておられるのだろうか。もう一時間もバスにゆられ、明るいネオンの大阪から遙か遠くなり、夜道の淋しさと異国に來た不安が込上げてくるのか、窓に顔をあててじっと外を見ている。三人の高校生姉妹は、脱出途中ベトナム政府軍に拉致され行方が知れなくなった兄弟夫婦の残した赤ン坊を連れている。白髪の六五才のお爺さんは、ベトナムに残してきた息子夫婦の赤ン坊をしつかりと抱いている。九時過ぎバスは御所教会に着いた。

奈良地区では早くからベトナム難民を助ける話し合いがなされていたが、昨年春頃から受入れが具体化してきた。その頃、西大和カトリックセンターのカーティ神父様から「京都教区としてベトナム難民を助ける計画がなければ自分たちで始めたい」ということを聞いた。八月、タイでのベトナム難民会議に参加されたカリタス・ジャパンの松村師とチネカ師が、その報告会をカリタス大阪でされた時、カーティ師の代理の方も出席されていた。カーティ師が奈良地区のベトナム難民の担当者として司教から任命され、先づ普きサマリヤ人修道女会の協力で修院の敷地に難民の人々を受入れる準備をされた

が、近隣住民からの反対が起った。それは、アジアの苦しむ兄弟たちに対する富める国の私たちの偏見に包まれた心配からであった。私たちは、日本人は単一民族だからとも言いが、その言訳は根拠がない。政府と国連の代表は、やむなく修院の好意を断念し、それ以前からも候補地に上っていた西大和の寮と御所教会敷地内とのうち、最終的に後者に決定したのである。

### 「チャウ・ブイ・サン」

(今日は)



### ベトナムの人々と

奈良県も、御所市も、教会のある戸毛地区の人々も協力を惜しまれなかった。特に二人の奈良県議の方は、政府にベトナム難民に対する手厚い政策を打ち出すよう要請状を出して尽力された。又、戸毛地区長さんも、県と御所市と地区住民との折衝を重ねながら、熱心に準備された。言うまでもなく、奈良地区の司祭、

修道者、信徒の方々、特に御所教会の信徒の方々の努力は特筆に価する。

二十八人(男子供十人、大人男女各九人)のこの人々は、一九七九年九月二十二日、小さな漁船に仲間一七〇人乗り、すし詰めのまま四日間海に漂流した時、幸運にも日本船に救助され、シンガポールで四ヶ月過ごした後、厳寒のさ中の日本に來られた。建築会社、電器メーカー、名も知れぬ善意の人々の協力で立派な住居ができていたが、まだ集会所兼教室になる部屋がない。教会側の負担も大きいに違いない。そして、ベトナムの人々の日本での生活もこれから始まる。小さな子供は教会の幼稚園へ、小学生は近くの学校に行き、大人の人たちは仕事をするようである。

「ベトナムには自由がない、生活ができない」と言っても、妻や親や子を残し生命を賭けて祖国を棄てた美しいベトナム娘、ベトナムの人々の心中には何が去来しているのだろうか。「サムイ」という日本語を皆が憶えた。数人が英語かフランス語を話す。十一才のフイちゃんは、会う人ごとに「ワタシノナマエワ、フイデス。ドゾヨロシク」ときれいな日本語で自己紹介している。

皆さん、私たちは皆神の子で兄弟です。私たちはあなたがたにできる事より、はるかに多くの事を教えられるでしょう。お互いに助け合いましょう。「サムイ」ですから気をつけて。では「チャウ・ブイ・トイ」(お休みなさい)。

(文責・斎木)



時報が対話 おうし書く  
の手段なら 者も読む者  
ば「互いにも、投稿者  
心を開けあ も編集者も。

◆友人が年賀状に、四柱推命による今年の運勢を書いてくれた。八月には画期的なよい事件があるだろうとの事。神様、この占いが当たるよう御配慮下さい。(き)  
◆モンキーがモンク(修士)に向って文句を云いました。「おこぼれ少いぞ」、どこも困りの様子です。でも愛までさびしくならない様に。(MT)

◆「見通しが利かない80年代」とは世間大方の評。ならばこそ「キリスト者の出番」と心得た。「見ざる、言わざる、聞かざる」は申に預けて、大いに「開心」と行きたい。何だか暮にも同じことを書いたつけ……。(Y)

◆逢う人ごとに「やせたね。もつと親切な方は、親しい友人に電話して「大丈夫なのか」と聞いて下さったそうである。支えてもらおうということは何と素晴らしいことでしょう。今年は、私も支える方にまわりたい。(I)

◆湖の冬は雲とにらめっこするグレーこわばった顔で黙りこみ  
比良の頂では厚化粧  
(亜)

(お断り)「諸宗教の対話」シリーズは、今号で難民問題を持集しましたので、次号からお送りします。

本紙を福音宣教に役立たせるため、「近所、お友だちにもお見せ下さい。」